

《植物分野》

植物は、『さわるな危険』という観点から、トゲのするどいタラノキやイラクサ類などを、また、かぶれる可能性があるヤマウルシやセンニンソウなどを取り上げます。



写真：ヤマウルシの特徴的な樹形

『食べるな危険』という観点からはトリカブトやハシリドコロといった有名な有毒植物をはじめ、ベニテングタケなどのいわゆる毒キノコについても標本や生態写真などで解説をします。



写真：ベニテングタケ（レプリカ）

これらの他にも、スイセンやイヌサフラン、ヒガンバナなど、有毒物質を含む身近な植物もいくつかご紹介いたします。

《地質分野》

普段の日常生活の中では接する機会は少ないものの、郊外に出かけた時などに注意を払っておくべき地質分野の事物はいろいろあります。たとえば、小規模なマンガン鉱山の坑道跡は、さわるとくずれやすく危険なところ。また、よく知られている岩石のひとつチャートの割れ口はするどく、手を切ります。



写真：火山の噴火による火山弾

今回の企画展では、そのような事物の標本や状況写真をはじめ、美しい自然の中に潜む様々な危険性についてご紹介します。

\* \* \* \*

以上、展示内容について簡単に触れましたが、この企画展の目的は『野外には危険がいっぱいだ』ということを強調することではありません。

ケモノたちの鋭い牙や爪も、美しい花に潜む有毒物質も、人間を攻撃するために用意された武器ではありません。

展示をとおして、このような“危険な”自然物や事物に対して正しい知識を身につけていただき、日常生活や学校生活、校外活動などの際に不用意に危険な目にあったり被害を受けたりする危険性を少しでも低くできたら、と願って展示の準備をしています。

企画展 『野外の危険なもの』

会期：平成22年2月13日(土)～5月9日(日)

会場：2階 企画展示室

(うすい とおる・担当課長)

博物館に寄せられた注目すべき昆虫の記録(3)

～ おたずね編 ～

アサギマダラという長距離移動をするチョウの翅(はね)にマークを付けて放し、それを捕獲することでこのチョウの移動経路などを調べる研究が盛んにおこなわれています。

この冬に、西日本のある機関から『埼玉』というマークが書かれたアサギマダラを2009年の秋に発見したが、このマーキングについてそちらの博物館では何か情報をもっていますか？ という問い合わせがありました。

『埼玉』マークのアサギマダラに心当たりがある方は、ぜひ当館までご連絡ください。

(碓井 徹・担当課長)